

## 中米ホンジュラスの斜面災害と JICA ボランティア活動

### その 3：首都の斜面災害

ホンジュラスは日本と同様、ほぼ 7 割が山地となっています。そして山地を形成する斜面には自然災害が起きやすく地すべり地も多く見られます (図 3.1)。

ホンジュラスの人口は約 800 万人ですが、100 万人を越える都市は首都のテグシガルパ市と北にあるカリブ海に近いサンペドロスーラ市です。この人口の集中する 2 大都市の内、テグシガルパ市は盆地にあり、豪雨時には周辺斜面で頻繁に地すべりが起こるため、社会問題となっています。まず、政府機関が集まる首都圏から防災を考えることが肝要です。私が JICA の SV として過ごした 2011 年 9 月から 2013 年 12 月の期間(2 年 3 箇月間)、日本からの支援として、日本学術振興会(JSPS)と国際協力機構(JICA)が連携して実施する科学技術研究員派遣事業と我が国のホンジュラスに対する防災災害復興支援無償資金協力「首都圏地滑り計画」の対策工実施期間が重なり、地すべり研究ならびに教育活動に対して非常に助けられました。前者の JICA-JSPS プロジェクトでは愛媛大学客員教授の山岸宏光先生が責任者となり 2014 年 2 月で終了しました(図 3.1 右参照)。

ホンジュラス COPECO (政府の偶発時対応の常備委員会)の調べでは、国土の 8.9%が地すべりの起こりやすい地域として挙げられています (図 3.1 左の赤色部)。集中している箇所は、西南部のエルサルバドル国境付近で中南米の火山帯の一部を形成しています。ただし、ホンジュラスには活火山はなく、かつ地震も少ないため、火山噴火、地震による自然災害の被災例はありません。

住宅地の斜面災害の例として、地すべり地形(跡)を無視して地すべり頭部に盛土を行ったために滑った例があります (図 3.2)。

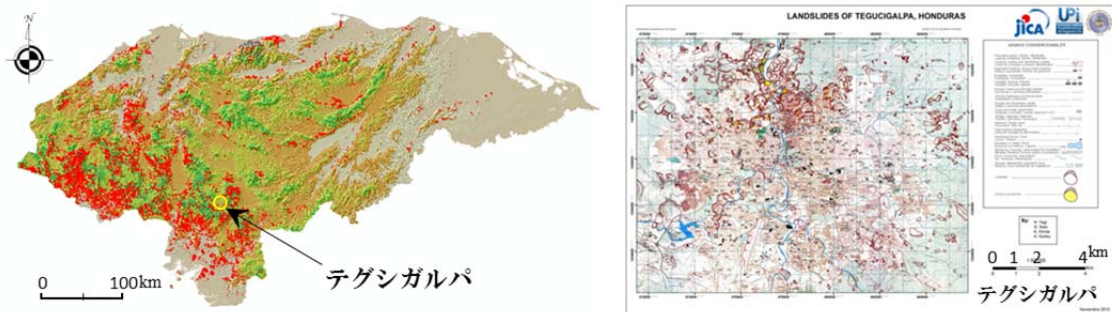


図 3.1. 地すべり分布図 (左:ホンジュラス、COPECO 資料に加筆, 右:テグシガルパ、JICA-JSPS 山形大学八木浩司教授、帝京平成大学佐藤剛准教授資料作成段階で一部公開時のものに加筆) .



図 3.2. 旧地すべり頭部の盛土上に宅地造成後の地すべり再活動現場  
(ミラフローレス・スル、上：2011年11月15日，下：2012年3月2日、廣田撮影).